



岩手らばーず Iwate-Lovers



岩手を全身で味わい、発信する Experience and transmit Iwate with your whole body

■学生：24名（西條, 清水, 鈴木, 澤里, 原口, 藤原, 本郷, 山田, 芹田, 白田, 會田, 嶋田, 木内, 後藤, 塚崎, 利守, 佐々木勇, 吉田, 米田, 永田, 伊藤, 佐々木美, 前田, 森田）

■担当教員：田中稲子

■連携・協力：岩手県, 岩泉町, 葛巻町, 二戸市, KEEN ALLIANCE, レッドカーペットプロジェクト, 他多くの岩手の皆様

■活動地域：岩手県, 東北地方

■サイト：<https://iwatekyouyouakaunt.wixsite.com/iwatelovers-ynu/blog>

「岩手らばーず」は、私たち横浜の学生にとって文化的・地理的に大きく異なる岩手県や東北地方の様々なエリア、企業、団体を直接訪問し、岩手独自の取り組みや、横浜でも見られるような共通の地域問題を探求し理解することを目的とし、前年度に創設されました。このプロジェクトでは、教室での学びを越えた実際のフィールド体験を通じて、地域コミュニティとのつながりを深めています。今年度は、前年度と比較してチームメンバーが増加し、それに伴いプロジェクトの活動範囲と内容も一層充実しました。

岩手らばーずの活動として中心となっているのが夏の長期休暇を利用した岩手県での長期インターンシップです。2023年度は二戸、葛巻、岩泉のプログラムに参加させていただきました。インターンシップを通して肌で感じた経験や地元の方とのつながりを活用し、横浜国立大学で魅力を発信しています。他にも、各々で沿岸部や農村部に出向き、ドキュメンタリー映像の作成やインタビューの実施、職場体験など様々な活動を行いました。さらに、学内では今年度は5月の清涼祭、6月のオープンキャンパス、9月のぼうさいこくたい、10月の常盤祭に出店し、岩手県で製造販売されているチキンカレーや椿茶の販売を行い、同時に団体としての活動内容やそれぞれの経験を発信しました。

今後は前述した活動の継続に加え、農業・畜産・防災など、各々が興味のある分野に関して、より踏み込んだ活動を行い、さらに深い知識と教養を身に付けることが出来るよう取り組んでいきます。また、活動を通じて得た学びや発見した岩手県の魅力が少しでも多くの人に伝わるよう、そしてそこから関心を持っていただけるよう、情報発信の場を広げるなど、実際のフィールドワーク以外の部分にもより注力していきます。



みなとまちプロジェクト The Port City Project



清水の歴史文化に関わる地域資源のブランディング Branding Shimizu's history with local resources

■学生：9名（山口大輔，廣瀬亜紀，武藤有花，岡田秀永，中田宙希，佐賀淳基，松本真羽，矢野誠悟，中根遼）

■担当教員：志村真紀

■連携・協力：常葉大学，東京大学，九州大学，茨城大学，静岡理工科大学，静岡市経済局海洋文化都市推進本部，静岡県清水港管理局，ぬくもり園，次郎長と港を活かした清水活性化協議会，伊豆石文化探究会

■活動地域：静岡県静岡市清水区

■サイト：<https://www.ynu-minatomachipj.com/>

みなとまちプロジェクトは、横浜と同じ港町である静岡市清水区の歴史文化に関わる地域資源をブランディングするために活動を行っているプロジェクトです。清水は横浜と同じ国際貿易港であり、近年ではクルーズ船の寄港地にも選ばれ、国内外から多くの観光客が来ますが、清水を經由して他所へ観光に行く人が多い状況があります。そこで、清水港の発展に寄与した地域資源として、お茶、伊豆石、清水次郎長、倉庫群、港湾線、富士山をブランディング・エッセンスとして位置づけ、横浜の学生という外部の視点から清水のまちを盛り上げるべく、まちづくり活動を行っています。

今年度はコロナ禍による活動制限が緩和されたため、対面での活動機会を増やしつつ、昨年度は行えなかった活動の拡充を図りました。清水には5月・8月・12月と3度訪問しており、8月には学生たちで実際に手揉み茶の製茶作業を体験し、地域特有かつ伝統的である手揉み茶の文化の重みについて再確認しました。5月および12月には、次郎長商店街をはじめとした清水のまちや博物館を巡り、清水の歴史や現況について理解を深めました。大学の文化祭では昨年度も行った、学生によってブランディングされた茶葉の販売だけでなく、学生が製茶した手もみ茶も実際に飲める形にして提供しました。また、他大学の学生より茶葉を輸出する際に用いられていた蘭字ラベルを活用したまちおこしについて提案を受けており、具体的なあり方について検討しました。

今後は、引き続き蘭字ラベルを活用したまちの活性化を実現するために現地との調整を行いつつ、清水の地域資源について町の内外へ発信していけるよう、より一層取り組んでいきます。

川根本町プロジェクト Kawane-Honcho project



**「美しい村」である川根本町で
獣害から茶産業を守るために鹿肉の啓発活動をしています
We are working to raise awareness of venison in
Kawane Honcho, a “beautiful village,”
to protect the tea industry from animal damage.**

■学生：6名（長嶺裕太郎, 垣内学, 上河内廉太郎, 山本聖奈, 佐藤慶嗣朗, 田室志織）

■担当教員：山崎満広

■連携・協力：川根本町役場, 株式会社リバールート, 地域町おこし協力隊

■活動地域：静岡県榛原郡川根本町

静岡県の山間部にある川根本町は古くから茶産業で有名です。しかしながら、近年は鹿や猿などによる獣害に伴う耕作地破壊が進行しており、地域産業の根幹が揺らいでいる状況です。また、駆除された鹿の利活用はあまり進んでいないのが現状です。そこで私たちは、地域の活性化を目指して鹿肉の啓発活動をしています。

今年度の大きな活動の一つは常盤祭への出店です。常盤祭では「鹿肉の多い料理店」で、鹿肉トルティーヤや川根のお茶を使用した白玉、アイスを提供しました。物品については、川根本町で鹿角製品を製作・販売されている「リバールート」様の商品を販売させて頂きました。鹿肉トルティーヤに関しては三日間で200食以上を売り上げ、お客様からも臭みがないとの声を頂き大変好評でした。また、川根本町役場の方からのぼりやはっぴ、チラシを貸して頂き、広報活動も行いました。

現在並行して取り組んでいるのが、美しい村レシコンテストへの出品です。こちらでは、鹿肉を使った棒葉焼きと鹿肉トルティーヤの出品を行いました。今年の現地訪問では、久野脇地区でのトイレのデザインコンテストと、川根時間のイベントに参加させて頂きました。

常盤祭での反響から、鹿肉については市場に受け入れられる可能性があると考えています。そこで、川根本町の狩猟イベントの際にも料理を提供できればと考えています。また、鹿肉だけではなく他のジビエ加工肉についても、需要と供給についての可能性を探っていきます。

鹿角製品に関しては本学で鹿の革製品を使った製品を作って起業している方や、経営学部でジビエについて研究されている先生がいらっしゃるようなので、そういった方々ともコラボしたり意見交換したりしていきたいと考えています。



再生可能エネルギー経済循環プロジェクト

Circular Eco Project



循環経済 × 循環資源

Circular Economy and Ecology

- 学生：7名（藤尾 好太郎, 江川海人, 楯洋行, 唐牛凌我, 坂本葵, 杉本真菜, 平井沙良）
- 担当教員：山崎満広
- 連携・協力：南砺市エコビレッジ推進課, なんとエナジー
- 活動地域：富山県南砺市
- サイト：<https://circular-eco.wixsite.com/website>

地域経済循環の停滞が進む中、その解決に向けて、エネルギーや地域資源が大きな鍵となります。昨年度に引き続き、富山県南砺市エコビレッジ推進課、なんとエナジーと協力し、再生可能エネルギー、特に南砺市が力を入れている木質ペレットの活用、普及を通して地域内経済循環を目指します。

富山県南砺市エコビレッジ推進課とのオンラインミーティングや事前調査により、南砺市の自然素材やエコビレッジ構想について学んだのち、夏季休業期間に南砺市を訪問しました。南砺市における太陽光パネルのアンケート調査や工場見学等による木質ペレットの実態把握、「南砺市いなみ国際木彫刻キャンプ」での運営補佐、その他南砺市の文化を把握しました。その後、太陽光発電の需要や可能性について、分析・考察を行いました。木質ペレットについても、その課題を把握し、今後の展望を構想しました。再生可能エネルギーとして木質ペレットを利用していく際の大きな課題の一つである、燃焼灰の処理に着目し、「燃焼灰の活用法」を南砺市エコビレッジ推進課に提案しました。南砺市内のデパートで行われる、南砺市役所による木質ペレットのPR活動に、資料の展示という形式で参加させていただくことになりました。また、南砺市の文化のPRや、それら文化を取り入れた地域内経済循環についても構想を練っています。

このプロジェクトとしての活動は終わってしまいましたが、このPJで学んだことを活かし、地域資源の循環を通じた地域経済の活性化について考えていきます。



島プロジェクト in 鳥羽 ～現代世界の課題の探索と協力の実践～

Island Project in Toba -Discovering the Challenges of the Modern World and Practicing Cooperation



三重県答志島をフィールドに 島民と共に島の未来を創ります！

Creating the future of the island with people live there ～In Mie prefecture Toshi～

- 学生：9名（落合祐飛，八郷真理愛，松本慧，徳永裕隆，浮田有我志，大湊颯太，上妻慶太，前田龍之介，長岡芽生）
- 担当教員：小林誉明
- 連携・協力：鳥羽市地域おこし協力隊 正林泰誠様，三好美咲様，鳥羽市議会議員 濱口正久様，鳥羽市，その他答志島の住民の皆様
- 活動地域：三重県鳥羽市答志島
- サイト：https://www.instagram.com/shimapj_toba

当団体は三重県鳥羽市答志島を起点に離島の文化や生活を理解し、その過程の中で発見した強みを伸ばし弱みを補う工夫を地域の方々と共に探っていくというコンセプトの元、2022年度に設立されました。現在は、答志島内の和具地域で以下の2つを運営しています。

①学生拠点プロジェクト

【目的】学生や島民との繋がり・アイデアによる答志島の活気付け
 【活動】現在島内で宿泊する際の選択肢は少なく、金銭的負担や他旅行者への配慮が必要な場合があり学生の来島の障壁となっています。また、どうしても観光客目線になり、リアルな島体験ができないと感じていました。そこで、市から移住体験住宅を借りて学生拠点とすることで、安価の宿泊と島民目線での滞在体験を担保し、島民の方々の手伝いがメインの合宿イベントを企画開催し、学生が島に来るきっかけづくりと学生と島民の繋がりを創出する取り組みを行っています。

②ウッドデッキ制作プロジェクト

【目的】ウッドデッキを介した島民×島民、島民×観光客、島民×学生などの交流の輪による答志島の魅力の向上、ウッドデッキを『看板』とすることによる島内での認知度の向上

【活動】1年目での渡島を通して答志島では同世代で仲が良い人同士の交流が主で他世代や島外の人々とは中々関わりや交流がないのではという課題を感じていました。その中で、交流に適した立地にある土地を貸して頂けるということで、現在、1年を通して島を訪問し、現地で材料を調達しながら、ウッドデッキを設計・制作しています。

今後は、短期的には、今活動している各プロジェクトが目標達成までやり遂げて効果をあげ、長期的には、島の抱える課題を解決して、かけがえのない答志島での営みを持続可能なものと私、後世に残していくことを目指していきたいと思っています。

おおたクリエイティブタウン研究プロジェクト OTA CREATIVE TOWN PROJECT



東京都大田区新田丸エリアでは、大規模な工場と中小の町工場が多く集まり、世界に誇る技術を持つ”モノづくり”のまちとして栄えてきました。しかし、近年は工場の海外進出や後継者不足から工場の閉鎖・移転が多くみられ、住宅へと建て替わり、まちの特徴である工場・技術が失われつつあります。

そこで、おおたの特徴であるものづくりをベースとしたまちづくりを「公（行政や公共的組織等）」×「民（民間企業・組合団体・区民等）」×「学（大学・学校・専門機関等）」の多主体が連携して進め、新たなモノづくりの力を生かして大田区の豊かな場づくりを進めています。活動内容としては、毎年行なっている「おおたオープンファクトリー（OOF）」での拠点企画に加え、今年から工場磨き上げプロジェクトと呼ばれる、学生による工場のさらなる魅力の掘り下げ・発信を行いました。また、月に一度の学生企画によるイベントも行い、工場のまちの魅力発信を行いました。学生企画のイベントでは、地域の道遊びの方とも共同でイベントを開催することができました。

今後は、おおたオープンファクトリーでのおおたのまちや工場の魅力の掘り下げを更に行い、大田区ならではの魅力あるまちづくりに取り組みたいと思います。また、他主体との連携などを通じて、地域で活動の場を広げていくことで、おおたクリエイティブタウン研究プロジェクトのさらなる発展を目指したいと思います。

**”モノづくり”を活かし
大田区ならではの魅力あるまちづくりに取り組む
I make use of "manufacturing"
I work on attractive town planning only in Ota**

■学生：11名（的羽祐奈, 小泉勇真, 佐々木健斗, 古田峻馬, 東陽輝, 三吉康太, 安井健悟, 都筑あずさ, 森田彩日, 宮沢七菜, 芝上明花香）

■担当教員：野原卓准教授

■連携・協力：東京都立大学, 大田観光協会, 工和会協同組合

■活動地域：東京都大田区

■サイト：<https://oct-c.com/>